

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>三、文中で敬語を正しく使う</p> <p>1 おばさんは上野の展覧会へ「いらっしゃいましたか。」は、正答率45%であり、「まいりましたか。」「おうかがいなさいましたか。」の順で誤答が多くなっている。</p> <p>2 母がいっしょに行きたいと「申しております。」(正答率58%)を「いっております。」「おっしゃっております。」と誤答しているのが目立つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 指導要領でも中学年から「丁寧語」の指導がとりあげられ、高学年で「尊敬語」「謙譲語」が、動詞を中心として取り扱われる。その場、その場の場面に最も適応した敬語を、的確に使うことはたやすいことではないが、具体的な相手や場面を想定して練習することによって、適切な敬語の使い方を身につけさせたい。
<p>観点④(語句を書く)について</p> <p>文章の中で、語句を正しく使うことは、平均正答率が67%であった。さらに、より語いの量を増すこと、語句の組み立てや役割、言葉の変遷や外来語・古語などの語句の知識と関心を養うこと、辞書の活用や語感・言葉の使い方に対する感覚を育てることが望まれる。</p> <p>また、敬語の正しい使い方の問題は、正答率が低い。(平均52%)、日常の言語生活では「行きましたか。」という丁寧語のほかに「いらっしゃいましたか。」という尊敬語のあることも指導しておくようにしたい。④の正答率は67%である。</p>	
観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>⑤ 文・文章を読む</p> <p>一、段落の区切りがわかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 前段の区切り <p>「ところが」という接続詞の働きに気づかないで、③の文章の終わりを区切るとしたものが多。(正答率36%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 後段の区切り <p>④を第2段落と考えたために⑤を第3段落にせざるをえなくなり、正答率がさらに低くなったと思われる。(正答率25%) また、記号で記入しないで、文の番号をそのまま記入したために誤りになったものもある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 段落の区切りをみつめるためには、文中の接続語や指示語などに注意させ、時、場面、論述の展開などに気を配りながら読み進めるようにしたい。 ◦ 内容を的確に読みとらせるため、文章の組み立てに注意し、意味のまとまりに気づかせることが重要である。また、筆者の考えと事実との関連を明確にとらえさせ、それを要約させることも大切である。
<p>二、文章の要旨・主題を読みとる</p> <p>1 筆者がいちばん述べたいものはたいい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 文章の要旨や主題の読みとり方まとめ方を